

# ひとつぶでも「セタシジミ」 -琵琶湖食文化を守る小さな取組-



国土交通省近畿地方整備局  
琵琶湖河川事務所 工務課

# 環境の再生・保全にはみんなの連携・協力が必要

## — 瀬田川散策路(管理用通路)施工時の取組事例紹介 —

### ■ 工事におけるセタシジミの保全(移植)

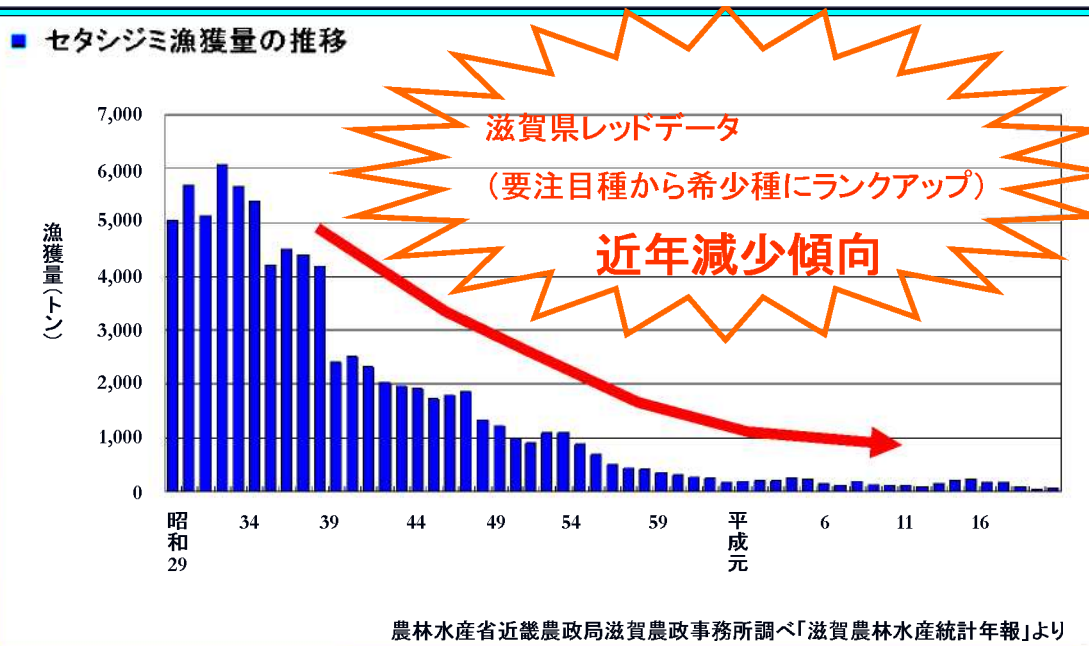
— 琵琶湖固有種であるセタシジミを始めとした底生動物(希少種)の保全 —

### ■ 工事におけるヨシ帯の保全(移植)

— コイ、フナ(類)を始めとした魚類の生育環境となるヨシ帯の再生・保全 —

# セタシジミ

- 学名: *Corbicula sandai*
- 分類: 軟体動物門 ニマイガイ綱ハマグリ(マルスダレガイ)目 シジミ科
- 琵琶湖固有種
- 滋賀県レッドデータ: 希少種
- 環境省カテゴリ: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)



・昭和40年代ごろまでは、岸边にもたくさんのセタシジミが生息していて、水遊びを楽しむ子供たちが足で貝をつかんで持ち帰り、晩ごはんのおかずにしていました。セタシジミを材料としたみそ汁、しぐれ煮、しじみ飯等は、家庭の味として古くから親しまれてきており、**琵琶湖の特産品**としても広く知られています。

・セタシジミの漁獲量は、かつて、琵琶湖漁業全体の漁獲量の50%以上を占めており、特に重要な漁獲対象種でした。しかし、その漁獲量は、**昭和32年の6,072トン**をピークに減少を続け、**昭和61年以降には300トン**を割り込み、**平成19年にはピーク時の約120分の1の52トン**にまで減少しました(上図)。

・最近では琵琶湖の**環境保全のシンボル**としてもセタシジミは位置付けられており、減少した資源の復活が強く望まれています。



しじみ飯



セタシジミ(滋賀県HP)

# 貴重種の保護

工事を実施するにあたり、事前に貴重種の確認を行い、工事区域外の箇所に移動させています。

瀬田川河道掘削工事

平津地区環境護岸工事



セタジミ



マシジミ



ヤマトカワニナ



タテヒダカワニナ



ハベカワニナ



ナンゴウカワニナ

# 散策路（管理用通路）の整備について

人々が容易にアクセスでき、散策を楽しめる散策路整備を行う事業です。

整備効果：瀬田川散策路は歴史・文化資産を安全に結ぶ軸を形成し、観光を中心とした地域づくりに貢献します。また、同時に環境に配慮した構造とすることで、水辺環境向上を目指します。一方、河川管理用通路として河川の安全を守るための日常巡視や施設点検に利用できる他、災害時に緊急用通路として利用できます。



## 施工箇所

セタシジミなど琵琶湖固有種が生息し、水際にはヨシ等の抽水性植物の群落形成が見られ洗堰の湛水区間及び琵琶湖を有する区間

# —位置図—

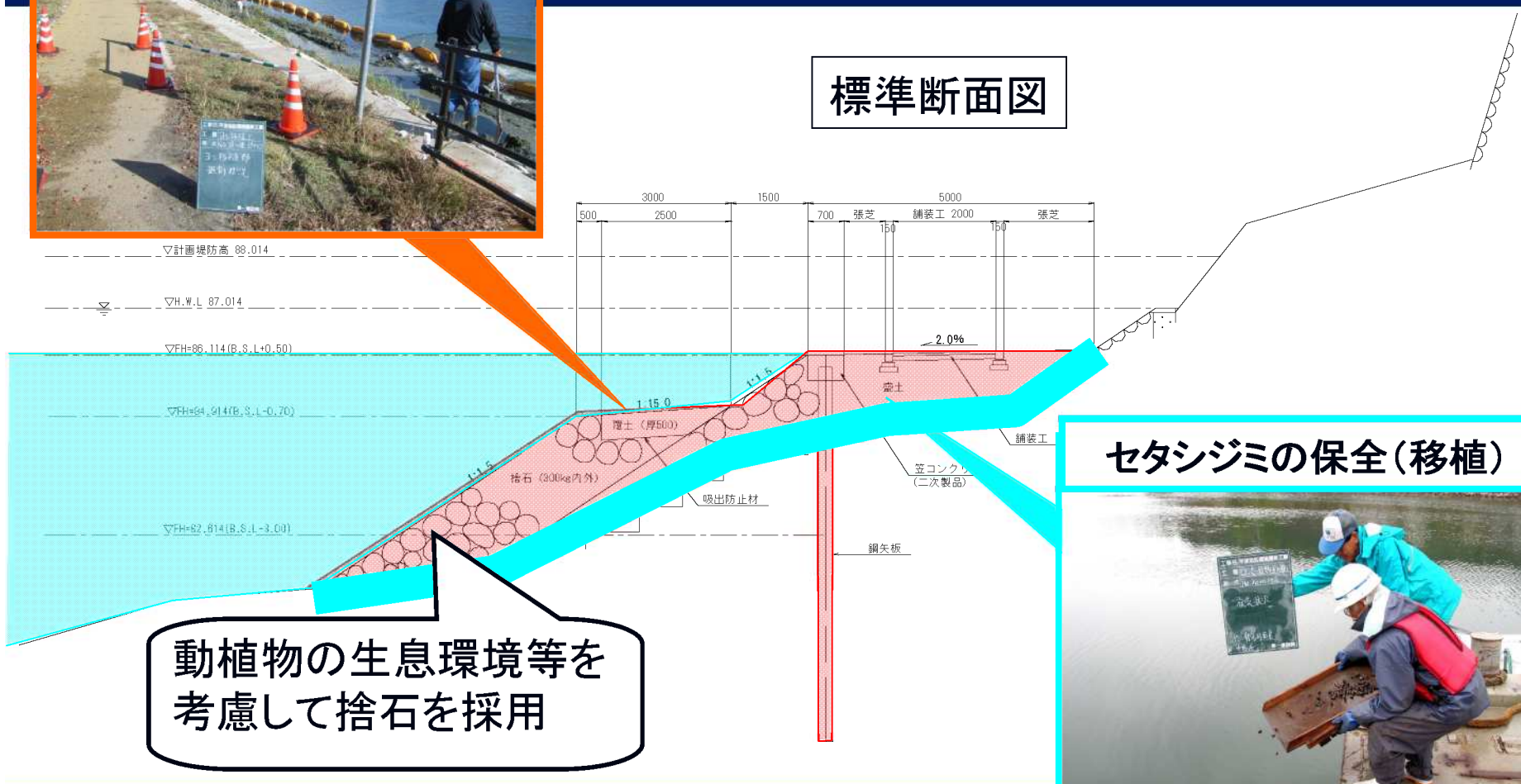


## ヨシ保全(移植)



## (①平成22年度の整備内容)

### 標準断面図



## セタシジミの保全(移植)



工事発注課の取組みとしては、瀬田川で実施する全ての工事において、貴重動植物の保全（「セタシジミの保全（移植）」、「ヨシ保全（移植）」）を実施。

# セタシジミの保全(移植)

## ①事前調査

底生生物の採取



採取状況



同定・集計



## ②移植

底生生物の採取



底生生物の確認



移植(放流)



- ・ 捨石工施工前に底生生物事前調査を実施し、移植を行った。
- ・ 事前調査及び移植に関しては、周辺漁協及び学識経験者の方の協力を得て実施した。



# ヨシ保全(移植)

## ①工事実施前の瀬田川



河川改修による  
環境の変化

ヨシ帯の減少



## ②工事実施時の取組

### ヨシの採取



### ヨシ移植(施工時の取組)

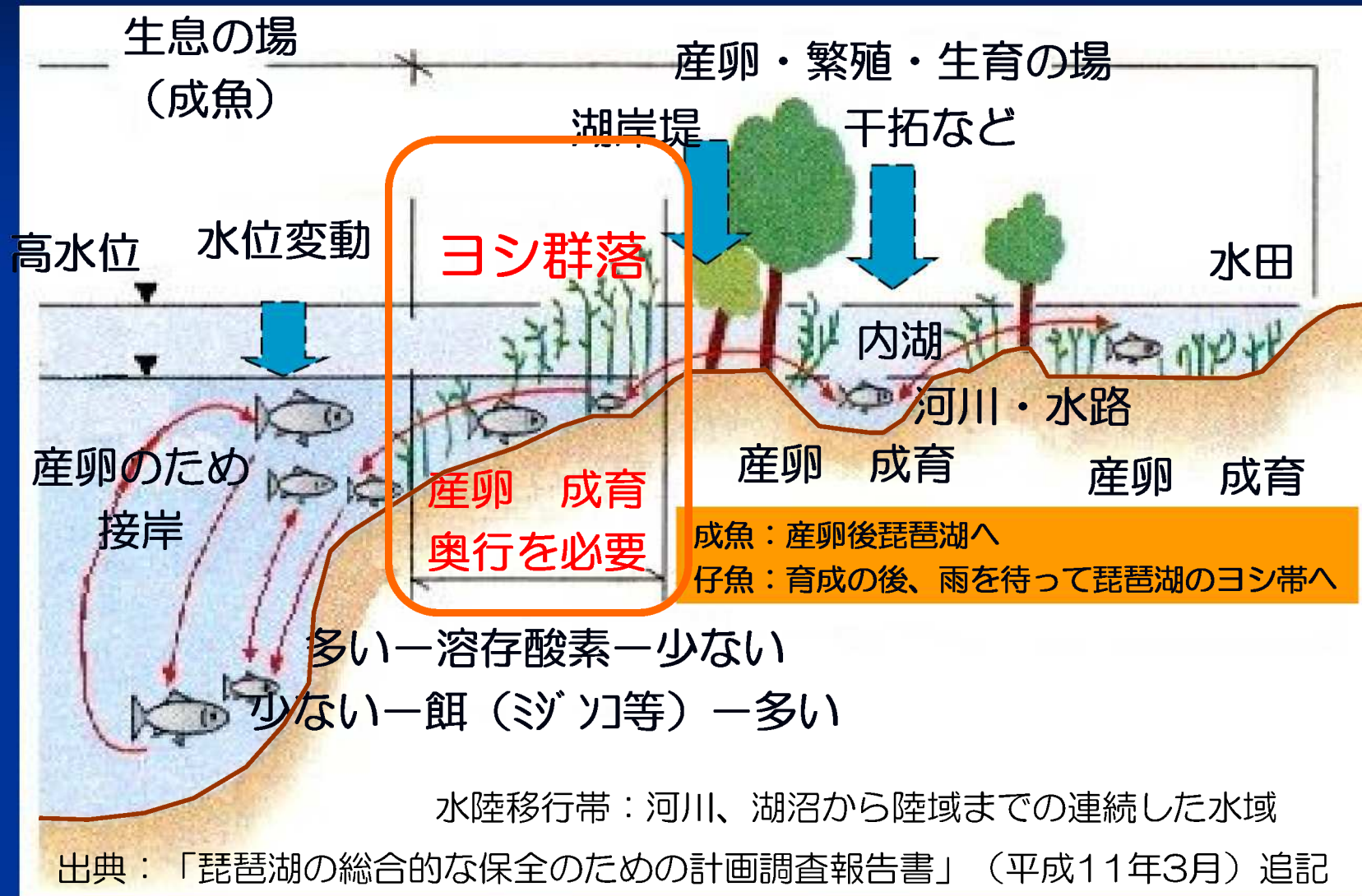


### 植生基盤の形成



工事の一環として、ヨシ帯再生を目指した取組を実施。施工に際しては、瀬田川水辺協議会や学識経験者からアドバイスをもらい植生基盤を含めた高水敷整備を実施。

# コイ科魚類の産卵・成育環境（イメージ）



## 取組成果の紹介

- ヨシの移植による植生基盤の施工箇所、コイの産卵が見られるようになった。
- 植生基盤の形成により、コイ・フナ類が産卵に戻ってくるようになった。



H20.4 山村工務係長 撮影

## H21 施工業者(山田代理人)からの声

- セタシジミの移植については、多いところでは1㎡程の所に200個体ものシジミを移植でき効果的だった。※)大半がセタシジミ以外であった。
- ヨシ移植について、移植時期が少し遅れ移植した新芽が野鳥に食べられた。ヨシ根を移植する際、茎を短く切りすぎたため、水没し根腐りしたものがあつた。
- 国交省の環境改善に対する取り組みがよくわかつた。

## ☆取組からわかつた問題点☆

- セタシジミ移植後の生息状況が不明。
- 同一移植場所・同一条件下でも繁茂状態に差が出ている所が確認出来た。
- ヨシ帯に流下してきたゴミが掛かり、環境面、景観性の面で良くない。

## ☆今後について☆

- ヨシ帯移植による植生基盤の形成については、移植時期及び移植方法等最適な条件を考えて実施していく。

### ●施工前の直営事前実験(工務係実施)

工事発注の事前調査として直営でヨシ移植。現在モニタリング中。



### 地域と連携した清掃活動



- セタシジミの移植については今後も継続的に実施し、モニタリング方法を検討して実施していく。
- 地域と連携した水辺の清掃活動等の取り組みを通して水辺環境の向上を図る。

### ●琵琶湖固有種の保全 琵琶湖の食文化を守る



施工業者・発注者・地域と  
連携して継続的に取り組む

ご静聴ありがとうございました。